

2024 年度（令和 6 年度）仙台市科学館特別展 実施報告

1 名称 「恐竜最前線 2024～奇跡の恐竜カムイサウルス～」

2 ねらい

- (1) 本展は、奇跡の大発見と称されるカムイサウルスの生きた時代とその世界をテーマに、“東北初公開”となるカムイサウルス全身骨格や同じ時代の化石標本や等身大の生体復元を展示・紹介し、来館者の興味・関心を高める。
- (2) 太古の生物たちの骨格標本、化石、生体復元等を展示、関連する CG シアターの同時展開、発掘の様子や道具紹介などの様々な展示を通して、白亜紀の古生物について基本的な知識を学ぶ。
- (3) 地球生命の繁栄は、地球上の様々な生物との間の微妙なバランスで保たれており、そのバランスこそが生物多様性である。生命の尊さと大切さを知るとともに、それを支える調和ある環境を未来へ引き継ぐことの大切さを普及・啓発する。

3 開催期間 2024 年 7 月 20 日（土）～同 8 月 25 日（日） 開展日数 33 日間
休館日 7 月 22 日、29 日、8 月 5 日、19 日（期間中休館 4 日間）

4 会場 スリーエム仙台市科学館
2 階特別展示室、3 階エントランスホール、2 階第 3 実験室

5 主催・共催・後援等

- (1) 主催 仙台市教育委員会
- (2) 主管 仙台市科学館
- (3) 協力 むかわ町穂別博物館、むかわ町経済恐竜ワールド戦略室、北海道大学総合博物館、群馬県立自然史博物館、栃木県立博物館、福島県立博物館、中川町エコミュージアムセンター、長野県古生物学博物館、むかわ地域商社（株）M Dino、株式会社ビーム
- (4) 後援 宮城県教育委員会、河北新報社、朝日新聞社仙台総局、毎日新聞仙台支局、読売新聞東北総局、産経新聞東北総局、日本経済新聞社仙台支局、NHK仙台放送局、tbc 東北放送、仙台放送、ミヤギテレビ、khh 東日本放送、CAT-V、J:COM 仙台、Date fm、ラジオ 3FM76.2

6 内容

(1) 展示・体験内容

①「プロローグ：恐竜最後の時代 白亜紀！？」

恐竜の誕生ヒストリーとともに、恐竜の生きた時代である中生代、そして恐竜最後の時代「白亜紀」について紹介した。同時期に生きた同じ鳥脚類のラブドドンラブドドンの全身骨格を宮城県初公開した。



②「前期白亜紀のアジア大陸の恐竜～約1億1000万年前頃～」

アジア大陸において多様化した恐竜たちを紹介した。様々な羽毛恐竜にスポットを当て、羽毛を持つティラノサウルス類ディロンや世界最大の羽毛恐竜ユティランヌスの生体復元（全長9m）などを展示した。



③「恐竜と歩こう」

恐竜の歩行やハンティングについてのシルエット動画を上映した。また、カムイサウルスが海に流される様子を再現した撮影スポットを設け、来館者が自由に恐竜と歩いたり記念撮影したりした。



④「後期白亜紀のアジア大陸の恐竜～約7000万年前頃～」

後期白亜紀にアジア大陸に生きた様々な恐竜たちを紹介した。同時代にアジア大陸で生きていたティラノサウルス類であるアリオラムスの全身骨格をはじめ、世界初の発見である、恐竜の喉頭骨の化石レプリカなどを展示した。



⑤「奇跡の恐竜“カムイサウルス”の発見」

カムイサウルスの発見と研究をテーマに、東北初公開となるカムイサウルスの全身骨格を中心に、カムイサウルスの発掘と詳しい研究成果を紹介した。発掘の様子を、当時の用具や写真と共に詳しく解説した。また、同じハドロサウルス類の恐竜であるエドモントサウルスの展示や恐竜CGシアターを通して、その生態や東アジアにおける独自の進化について解説した。



⑥「謎の恐竜テリジノサウルス」

北海道中川町で発見された、新属新種「パラリテリジノサウルス・ジャポニクス（日本の海岸に棲むテリジノサウルスという意）」について、アメリカで発見されたテリジノサウルス類のノスロニクスの全身骨格などを展示し、その全体像を紹介した。

⑦「恐竜の絶滅」

およそ6600万年前のユカタン半島での巨大隕石の衝突の影響を受けて、どのような環境変化が恐竜を含む様々な生物を絶滅へと導き、その後の鳥類や哺乳類の大繁栄へ導いたのか。ジオラマやパネル展示で解説した。

⑧エピソード：～未来へつなげ、恐竜ハンターの夢と希望！～

恐竜ハンターが広大な砂漠や荒地から発見する貴重な恐竜化石は、異常気象や砂漠化などの地球環境問題への対策の手がかりをもつタイムカプセルと考えられている。恐竜研究から生物多様性について考え、「恐竜」の謎を解き明かすことは、私たち人類自身が持続可能な世界を考える上でも重要なテーマとなることを、解説パネルや古生物学者からのメッセージパネルで解説した。



(2) 3階エントランス【展示・体験】

①「恐竜牧場」

エントランス内の恐竜牧場スペースを、恐竜のエアークスチュームを着て自由に散策した。牧場内には、カムイサウルスのバナーやカムイサウルスの大腿骨、段ボール恐竜、アロサウルスの生体復元模型、足跡モデルを展示し、自由に写真撮影ができるスペースとした。

体験人数：未就学児 6,198人 小学生 6,105人 中高生 108人 一般 614人

体験者総数 13,067人



②「恐竜が生きた時代の県内の化石」

東北大学総合学術博物館よりお借りした、気仙沼産の日本最大級のアンモナイト類化石を展示した。また、仙台市科学館で所蔵する中生代の化石標本として、ウタツサウルスについて紹介した。



(3) 2階第4実験室【体験】

①恐竜ペーパークラフト

頭にかぶることができる、ティラノサウルス頭骨のペーパークラフトを製作した。作った後は、かぶって写真撮影をしたり、特別展や常設展を観覧したりした。

体験（配付）枚数 15,976枚



7 関連イベント

(1) 恐竜最前線 2024 講演会①

講師 北海道大学総合博物館 小林快次教授 7月27日(土)

演題 「奇跡の恐竜カムイサウルスの発見!～恐竜研究最前線～」

概要 カムイサウルスの発見から2019年の新種発表までの歴史と、ハドロサウルス類の最新研究について解説していただいた。

参加者 抽選 80名(申込み:436名) 動画中継観覧者 約100名



(2) 恐竜最前線 2024 講演会②

講師 福島県立博物館 吉田純輝学芸員 8月3日(土)

演題 「恐竜は鳴く? ～恐竜研究最前線～」

概要 展示室内で紹介している、ピナコサウルス喉頭骨の発見と恐竜類の発声について、最新研究の内容を解説していただいた。

参加者 70名



(3) 化石レプリカ作り教室

8月9, 10日(金, 土)

会場 1階市民の理科室

内容 事前申込み制で、開催日両日ともに2回に分けて実施した。実物化石から製作した型枠に、お湯で温めた熱可塑性プラスチックを詰めて、レプリカを作製した。

参加者 抽選 422名(申込み:544名)



(4) 化石鑑定会 8月11日 (日)

会 場：2階第2実験室

講 師：みちのく古生物研究会

内 容：みちのく古生物研究会の方々を講師にお招きし、来館者が持ち込んだ化石を鑑定していただいた。

参加者 相談者 10組 (化石見学者含む参加人数：321名)



8 運営・広報等

(1) マスメディアを通じた広報

- ・仙台市ホームページトップページにて広報
- ・市政だより …7月1日号掲載
- ・河北新報 …事前公開7月19日 (金) 取材 河北新報ONLINEに紹介記事掲載
…7月27日 (土) 講演会取材 8月10日 誌面への記事掲載
- ・ミヤギテレビ …事前公開7月19日 (金) 取材 夕方のニュースで紹介
…8月21日 (水) 取材 「OH!バンデス」で紹介
- ・仙台放送 …事前公開7月19日 (金) 取材 夕方のニュースで紹介
- ・NHK …7月20日 (土) 取材 夕方のニュース, 後日イベント情報でも紹介
- ・東日本放送 …7月18日 (木) 「ナマイキTV」生放送内で恐竜牧場の紹介
8月14日 (水) 取材 夕方のニュースで紹介

(2) リーフレットとポスターを作成し、市内幼稚園・保育園、県内小中学校等に配付した。さらに市民センターなどの施設や東北各県の博物館などにもポスターの掲示を依頼した。

配布先は、<別添資料>を参照。

9 特別展入場者数

61,737人 (うち、未就学児 8,893人)